

# りそな Asia時事フラッシュ

## 中国預金金利引き下げの影響

### ○中国5大銀行が預金金利を引き下げ

- 6月8日、中国の5大国有銀行が要求払い預金金利を0.05%、2年物の定期預金金利を0.10%、3年物と5年物の定期預金金利を0.15%引き下げた。
- 6月6日に中国の市場金利決定自律メカニズム(金融機関によって構成された市場金利決定の組織)が国内の大手銀行に対し、要求払い預金金利を0.05%、3年物と5年物の定期預金金利を少なくとも0.1%を引き下げよう要請したことを受けた措置と見られる。
- 中国の預金金利は各金融機関が預金金利上限内でLPR(最優遇貸出金利)と10年国債金利を参考に決めている(左下のグラフ)。これを預金金利の市場化調整メカニズムと呼び、2022年4月に中国人民銀行の指導により導入された。それ以来、預金金利の引き下げは4回目。LPRは2022年8月以降変更されていないが、直近の10年国債金利の低下分を反映したと見られる。預金金利の低下は金融機関にとっては調達コストの削減になり、預貸利鞘が改善する。当局はこれにより、金融機関の貸出増加につなげる狙いがあると考えられる。
- LPRは人民銀行が定めるMLF(中期貸出ファシリティ)金利とスプレッド(提示銀行の調達コスト、需給、リスク選好などで決まる)によって決まる。今回の預金金利引き下げにより調達コストが低下した結果、今後はLPR自体が低下する可能性も高まった。特に、3年物、5年物の大きめな低下幅と直近中国当局が不動産市場に対して支援策パッケージを検討しているとの報道を考えると、6月20日に発表される住宅ローン金利の基準である5年LPRが低下する可能性がある。

### ○しばらくの間人民元は弱含みを予想

- 人民元への影響について、大手銀行はドル預金金利も同時に引き下げているため、人民元とドルの預金差の観点からの影響は限定的。ただし、市場の一部では政策金利のMLF金利の引き下げ期待も生じている。今週、豪中銀、カナダ中銀の利上げを受け、FRBの利上げ期待が再燃しているなかでの利下げとなれば、主要中銀との金融政策の違いが意識され、人民元はしばらくの間、弱含みする時間帯が続くだろう。
- 一方、不動産市場への支援策パッケージにより景気刺激効果が生じれば中国金利が上昇し、中期的に人民元のサポートとなる。

### 預金金利の決まり方

預金金利上限

=

預金基準金利  
(人民銀行が決める)

+

スプレッド  
(自立メカニズムが決める)

LPR

10年国債金利

参考

預金金利

影響

### LPRの決まり方

LPR※

※18提示行の提示レートのトリム平均。毎月20日に発表される

=

MLF金利  
(人民銀行が決める)

+

スプレッド  
(提示銀行が決める)

出所:各種報道、中国人民銀行